

## 2013 年度第 2 回学術委員会議事録

(文責：羽深)

日 時：2013 年 11 月 25 日 (木) 16:00～18:00

場 所：日本建築学会北海道支部会議室

出席者：佐藤、溝口、長谷川、斉藤、森 (傑)、坂井 (欠席)、羽深、谷口、戸松、南 (欠席)  
森 (太)、深瀬、白井、  
事務局：菊地

### 議事

- 1、第 1 回議事録 (案) の確認 (資料 13-02-01)
  - ・議事 3 「2012 年度の第 4 回議事録」における技術賞選考過程の WG の位置づけについては、第 2 回委員会の議事とする。
  - ・議事 12 「2013 年度道内工業高校巡回講演会について」における常議員会で議論可能な提案については、第 2 回委員会の議事とする。
- 2、委員名簿の確認 (学術委員会・委員会名簿 2013)
- 3、本部学術推進委員会報告  
なし
- 4、専門委員会・特定課題研究委員会報告 (資料 13-02-03)
  - 1) 構造専門委員会 (資料 13-02-03-01)  
委員会 10/21・12/18、講演会 10/28、勉強会 12/18、2013 年度計画
  - 2) 材料施工専門委員会 (資料 13-02-03-02)  
委員会 10/11
  - 3) 建築計画専門委員会 (資料 13-02-03-04)  
2013 年度計画、委員会 7/5、講演会 7/1、大会 PD9/1、WG8/6、11/26
  - 4) 歴史意匠専門委員会 (資料 13-02-03-05)  
委員会 6/29・10/5、建築文化週間 10/12 「建築散歩」報告
    - ・特定課題研究委員会 (建築史意匠委員会)  
委員会 6/29・10/5、2013 年度計画、2014 年度計画
  - 5) 北方系住宅専門委員会 (資料 13-02-03-06)  
委員会 5/9・8/19、「住まいづくりセミナー@北海道」開催 9/2、ニセコ町団地改修等の住宅見学会 11/2
  - 6) 都市防災専門委員会 (資料 13-02-03-07)  
建築文化週間 10/5 「地震防災体験学習」報告
- 5、支部研究発表会 (資料 13-02-04)
  - ・11 月新委員推薦依頼、12 月委員会メール会議
  - ・2014 年度は 6/28 (土) 釧路高専、会長講演実施
- 6、特色ある支部活動企画応募について
  - ・応募なし
- 7、2014 年度建築文化週間企画 (資料 13-02-03-05)
  - ①都市防災専門委員会「地震防災体験学習」10 月土曜開催、釧路市、156,000 円
  - ②歴史意匠専門委員会「建築探訪」10/11 開催、函館市、129,500 円以上 2 件の応募案について承認

## 8、2014年度特定課題研究委員会について

- ・応募なし

## 9、日本建築学会北海道支部技術賞について（資料 13-02-03-06）

### 1) 募集要項の確認

- ・応募期間 11/15-1/15 17時まで
- ・候補推薦書（応募申込書）、候補技術概要説明書の様式確認

### 2) 決定方法の確認

- ・選考委員会は支部長・学術委員会委員長・各専門委員会主査および支部長が任命した者
- ・選考委員会の構成にはWGはないので、WGはあくまで選考委員会における補助的役割を担い、WGの意見で選考されている印象を持たれないようにする。今後WGの名称は使わない。

## 10) 道内工業高校巡回講演会について

### 1) 常議員会への提案

- ・支部としての決定を行いながら、工業高校側の選択余地を残す。
- ・指名制と選択制の折衷案で進める。
- ・年度ごとに分野を決め、テーマを提示して、工業高校側が選択する。
- ・構造・材料、環境・建築計画、歴史・都市計画、北方・都市防災の組み合わせとする。
- ・各委員会がテーマを出し、主査・支部を経由して、工業高校側が選択する。
- ・年度ごとの実施工業高校は、工業高校の常議員会委員が調整する。

### 2) 次年度以降の計画

- ・平成26年度 苫小牧は構造、小樽は環境
- ・平成27年度 室蘭は都市計画、名寄産業は北方
- ・平成28年度 札幌は材料、函館は建築計画
- ・平成29年度 歴史、都市防災が担当

## 11) その他

### 1) 建築学の道内における啓発活動

- ・工業高だけでなく、道内の小学校・中学校・高校への「衣食住としての住」の啓発
- ・学生対象より道内の小学校・中学校・高校教員への啓発が有効である。
- ・北方建築総合研究所開催のワークショップ等は家庭科教員には好評である。
- ・具体的に札幌市教育委員会の教員研修機関「札幌市教育センター」や北海道教育委員の担当機関に打診する（札幌市は羽深が打診）。

### 2) 常議員会から岡田支部長の要望

- ・会員増と学会費の収入増のため、若手研究者（学生も含む）への論文や作品の表彰を増やせないか。
- ・環境委員会の若手研究者発表会のような交流の場の開催や支部研の司会に大学院生の活用を計れないか。
- ・賞は飽和状態で、一度創設すると廃止できない。会員増と表彰制度創設と若手の活用は別々に対策を練った方がよい。

次回の第3回学術委員会は2014年1月で調整（1月23日（木）17:00～18:00）